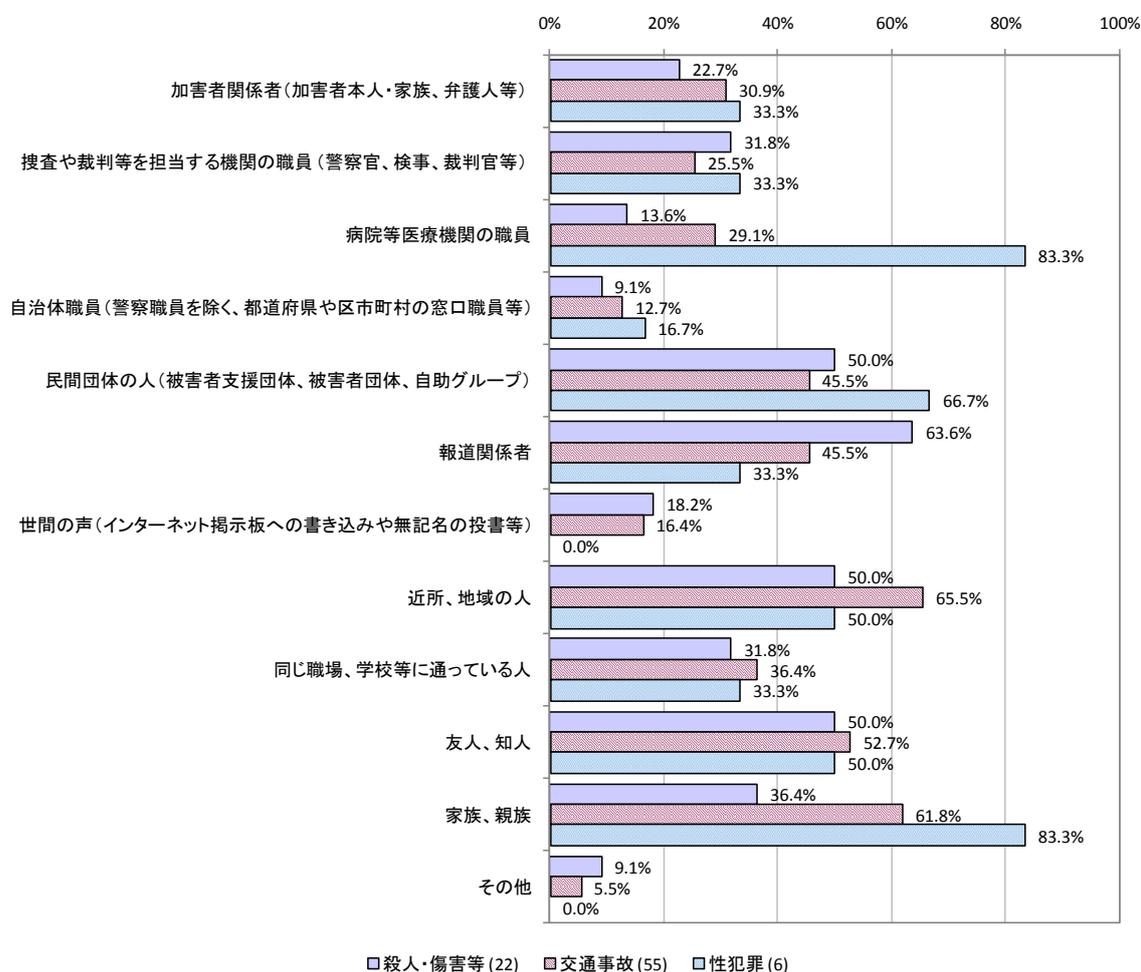


2-2-6 二次的被害について

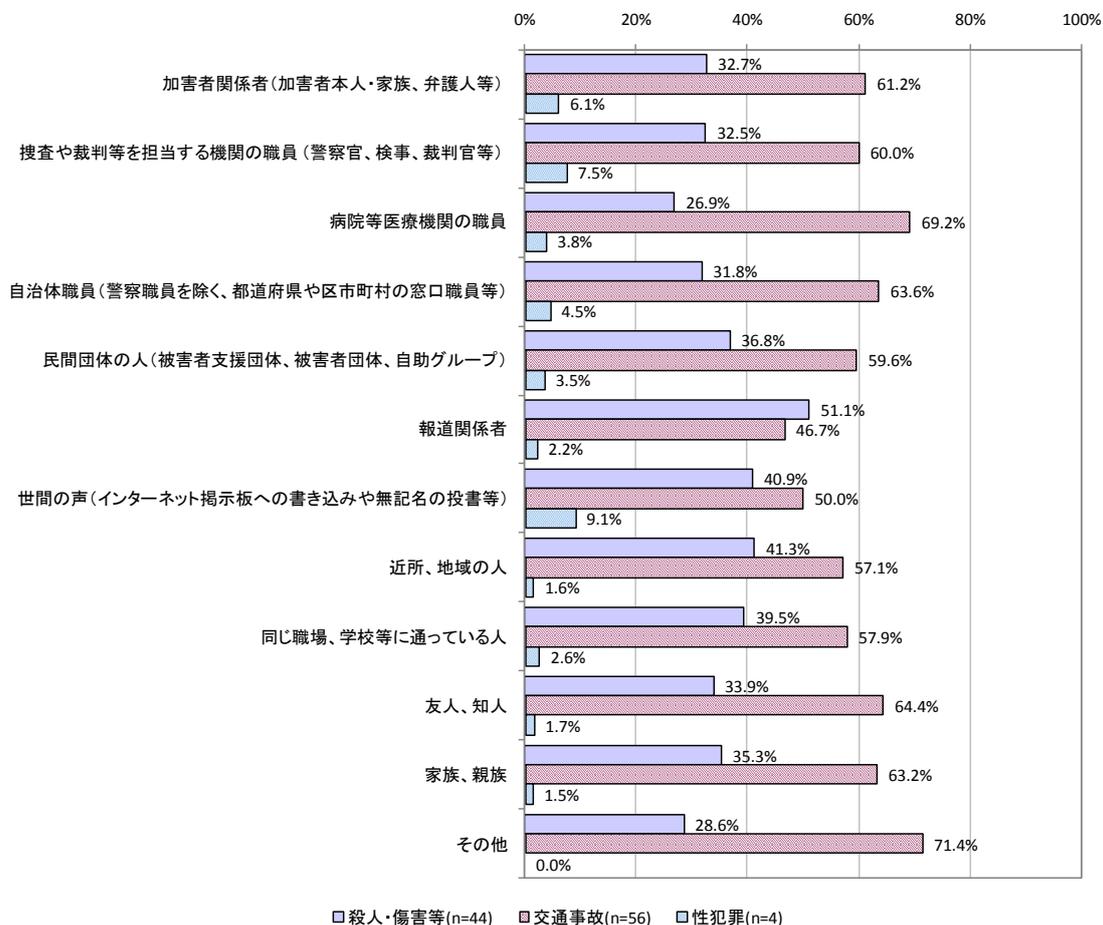
(1)この1年間に関わった人々 (パネル調査\_問16)

この1年間に関わりのあった人を質問したところ、類型にかかわらず、「近所、地域の人」(殺人・傷害等で50%、交通事故で66%、性犯罪で50%)、「友人、知人」(殺人・傷害等で50%、交通事故で53%、性犯罪で50%)、「家族、親族」(殺人・傷害等で36%、交通事故で62%、性犯罪で83%)、「民間団体の人」(殺人・傷害等で50%、交通事故で46%、性犯罪で67%)と関わりがあったとする人の割合が比較的高くなっている。その他、殺人・傷害等では「報道関係者」が64%、交通事故では「加害者関係者」が31%とやや多くなっている。

図表 2-81 被害類型×この1年間に関わった人々 (平成21年度)



図表 2-82 被害類型×この1年間に関わった人々（平成20年度）



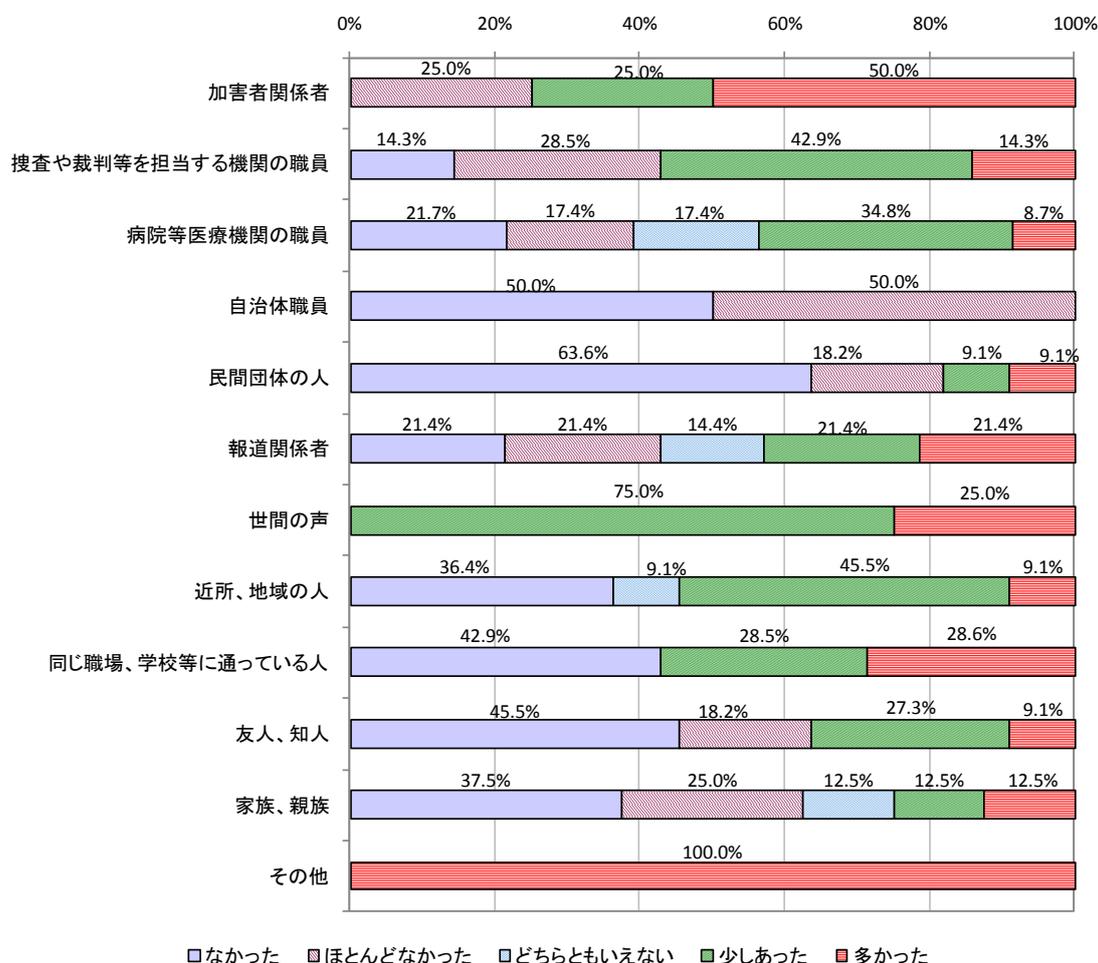
※平成19年度は、「この1年間に関わった人々」の設問がないため割愛。

(2)1年間に二次的被害を受けたと感じた対象者（パネル調査\_問16）

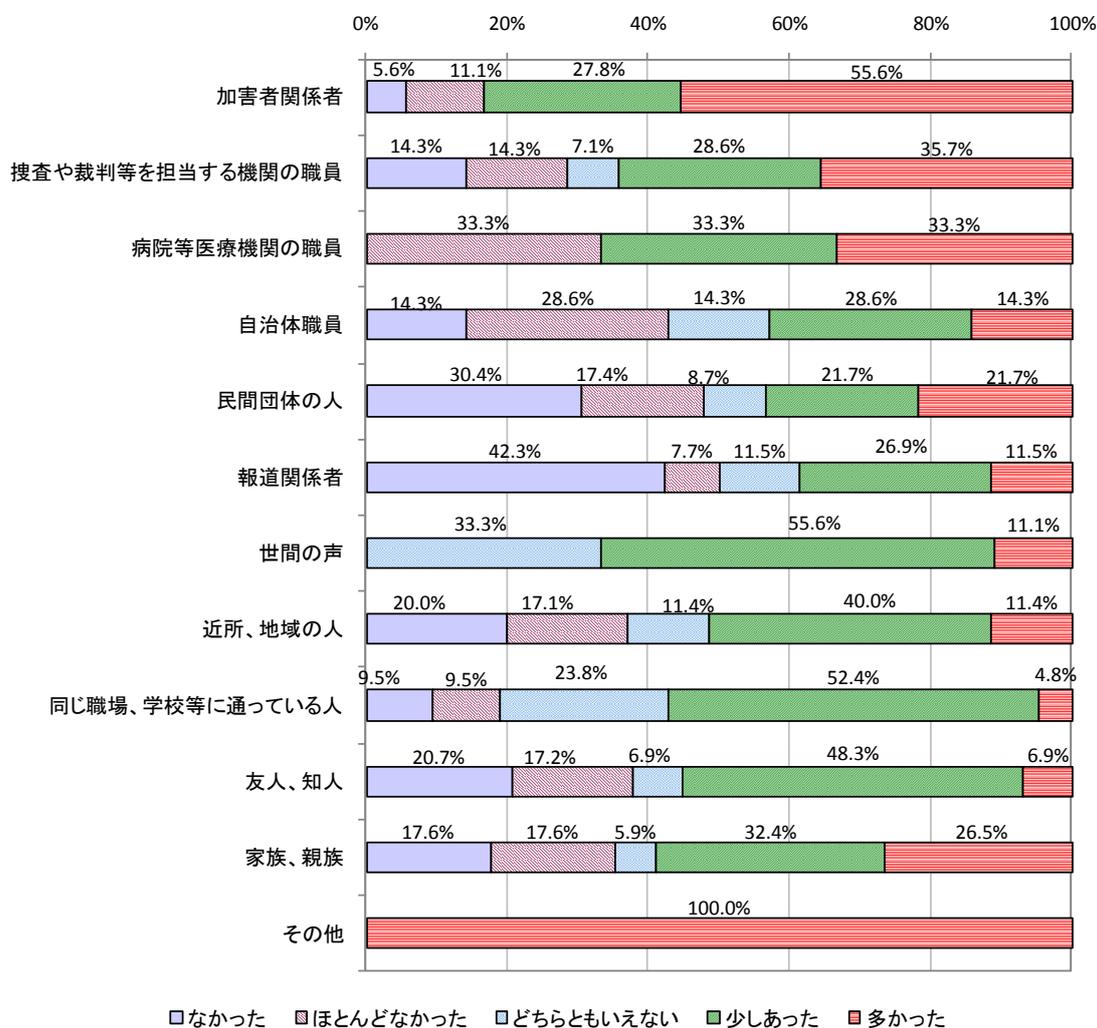
殺人・傷害等、交通事故ともに、この1年間に関わりがあった人の多くから傷つけられることが「少しあった」、「多かった」としており、様々な人から二次的被害を受けていることがわかる。内訳をみると、「加害者関係者」（殺人・傷害等で78%、交通事故で83%）、「捜査や裁判等を担当する機関の職員」（殺人・傷害等で57%、交通事故で64%）、「捜査や裁判等を担当する機関の職員」（殺人・傷害等で8%、交通事故で64%）、「世間の声」（殺人・傷害等で100%、交通事故で67%）から「傷つけられることが多かった」割合が高い。

また、家族や友人、職場や地域の人など、普段の生活で接する身近な人々からも傷つけられたと感じた人も一定の割合を占めている。

図表 2-83 殺人・傷害等×二次的被害（平成21年度）

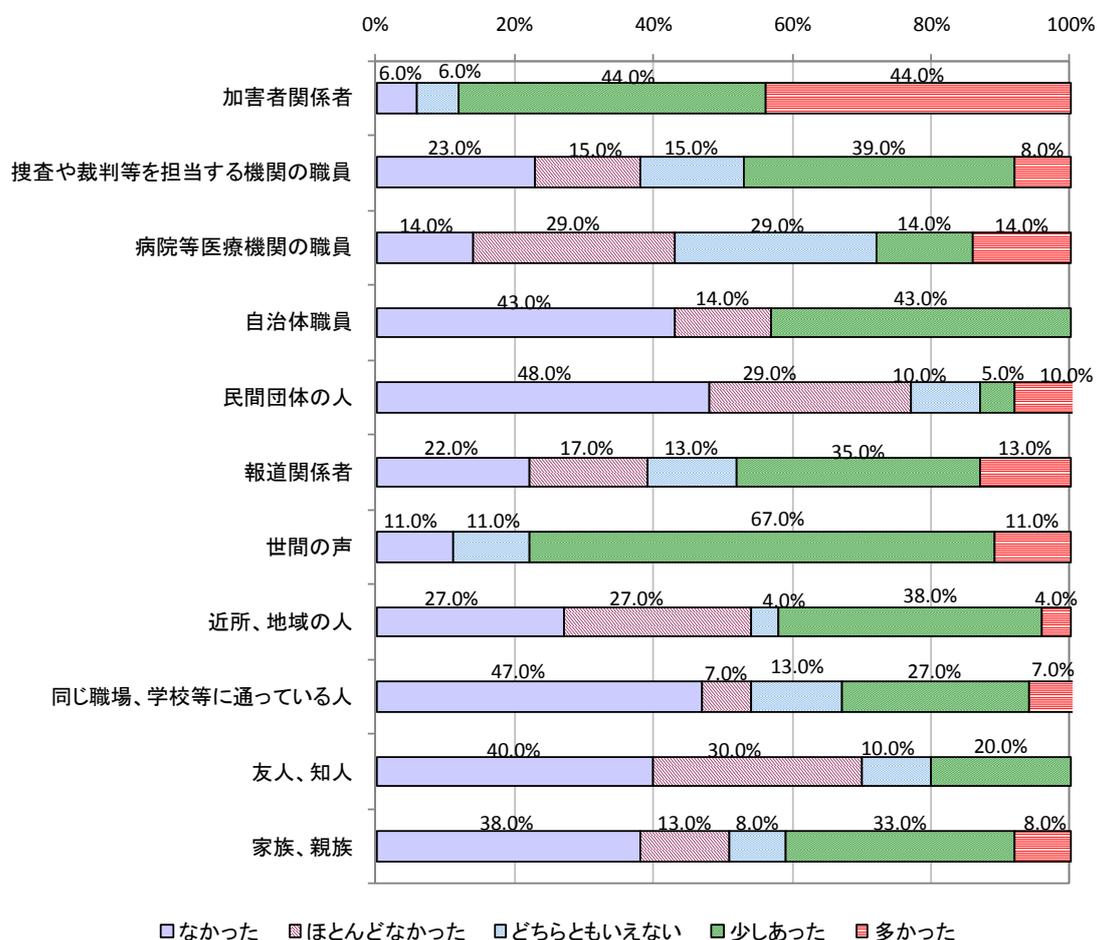


図表 2-84 交通事故×二次的被害（平成21年度）

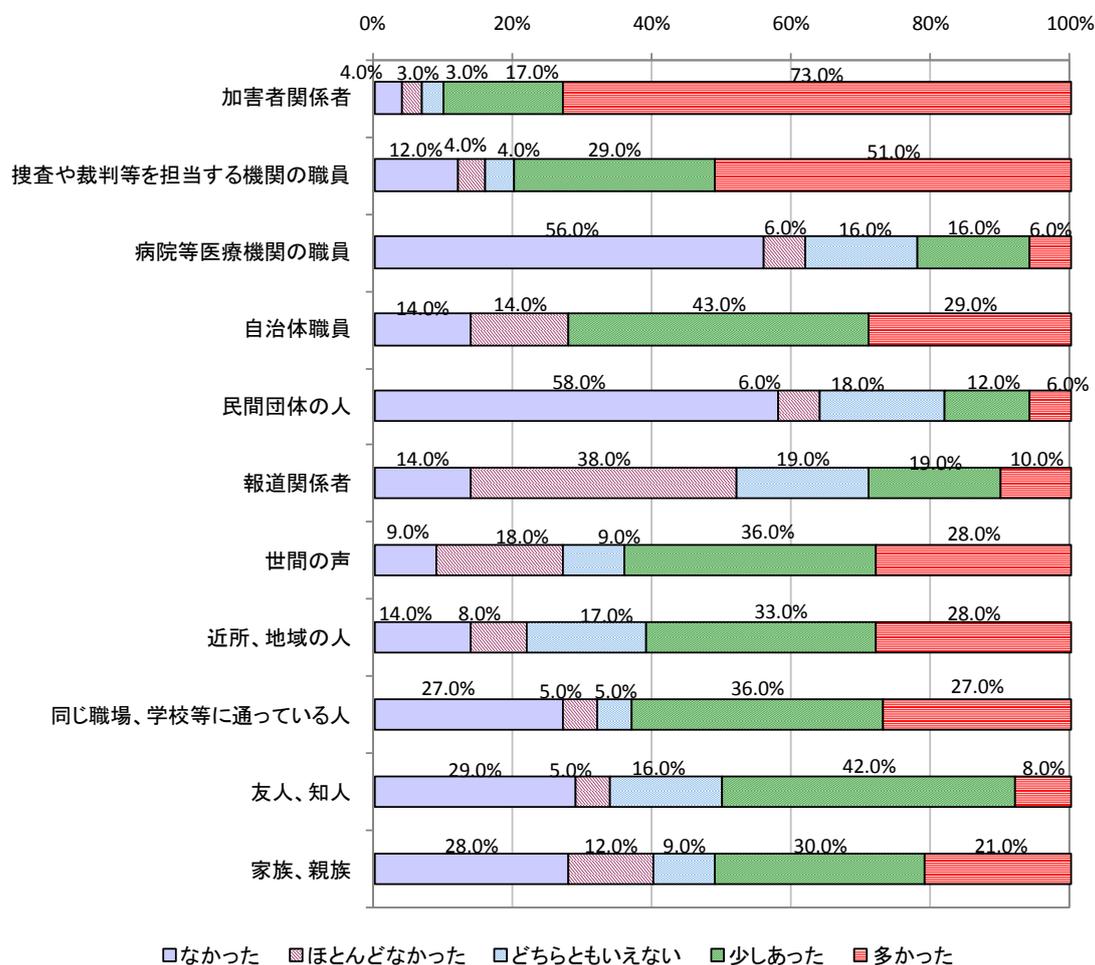


※サンプル数が少ないため、性犯罪は割愛。以下2か年同様。

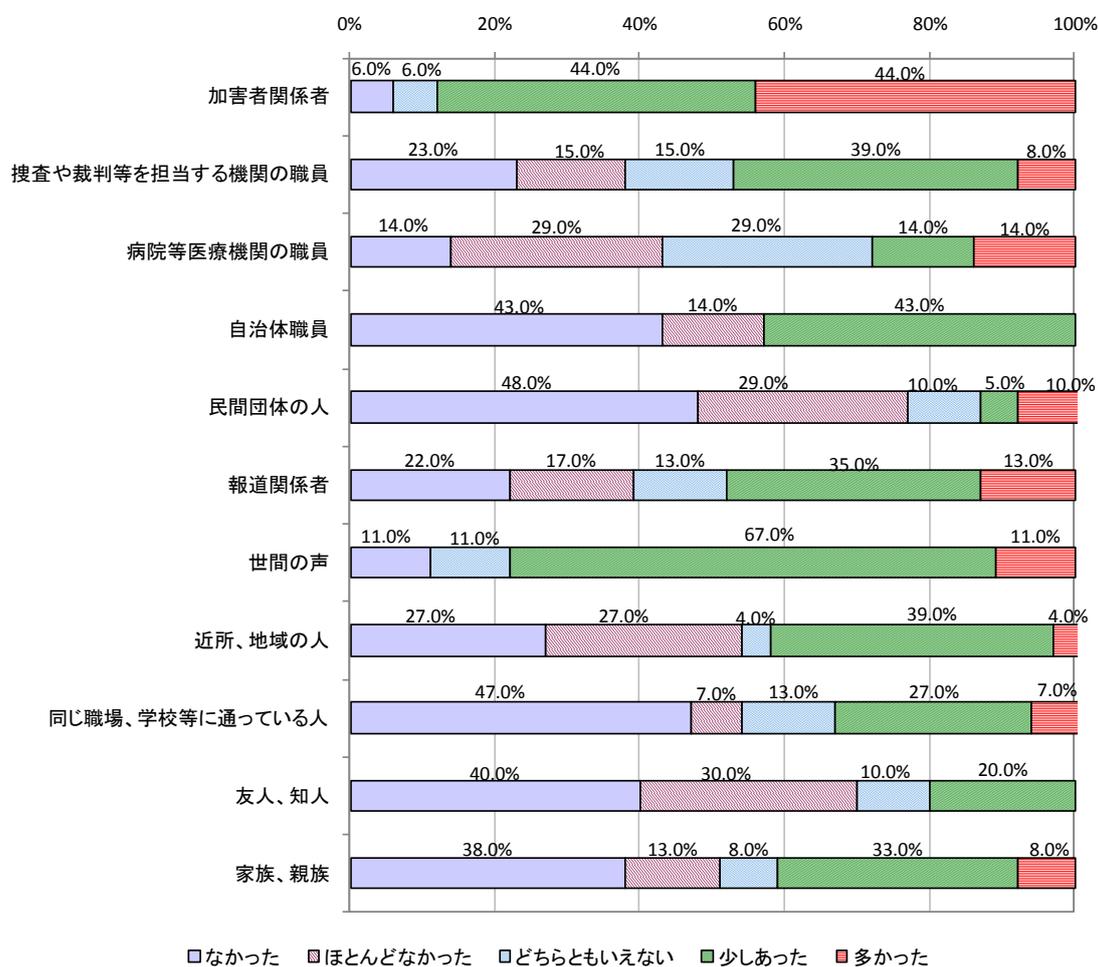
図表 2-85 殺人・傷害等×二次的被害（平成20年度）



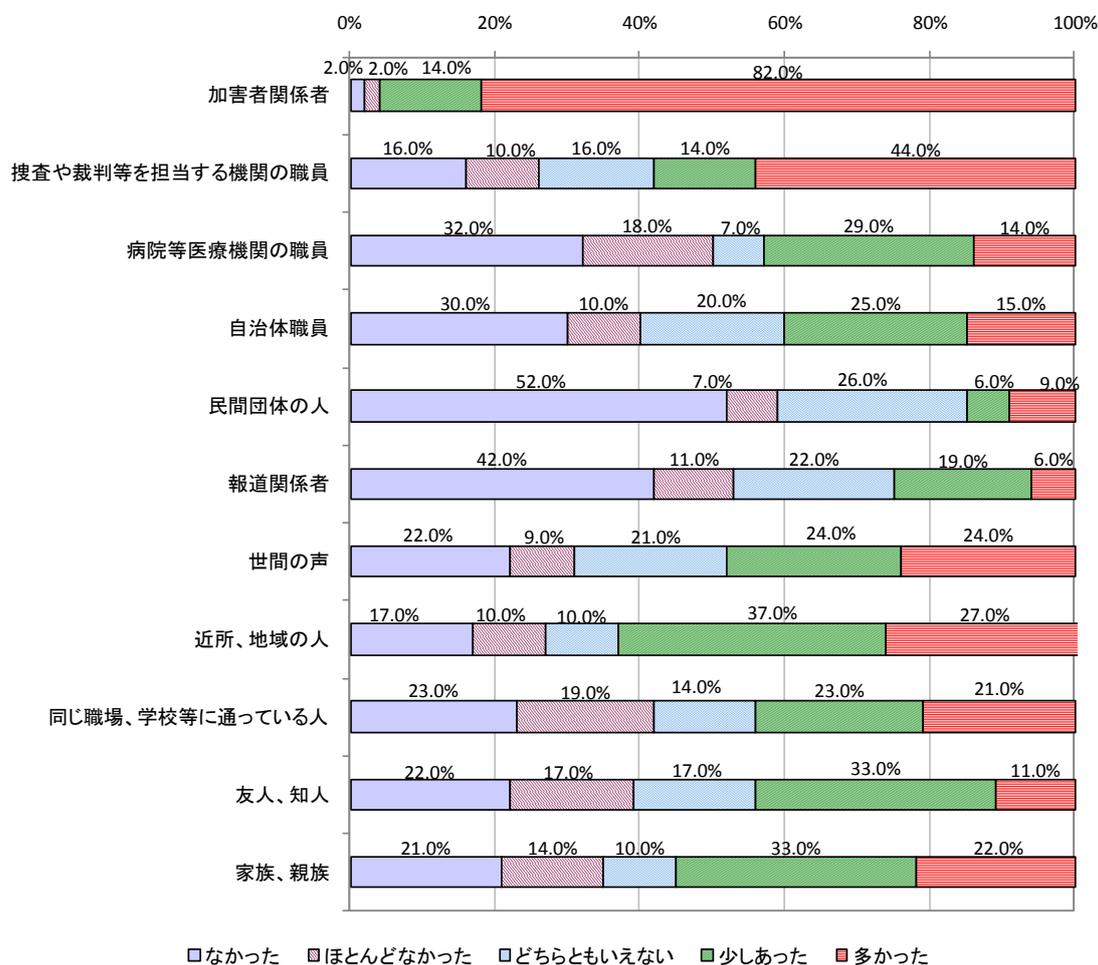
図表 2-86 交通事故×二次的被害（平成20年度）



図表 2-87 殺人・傷害等×二次的被害（平成19年度）



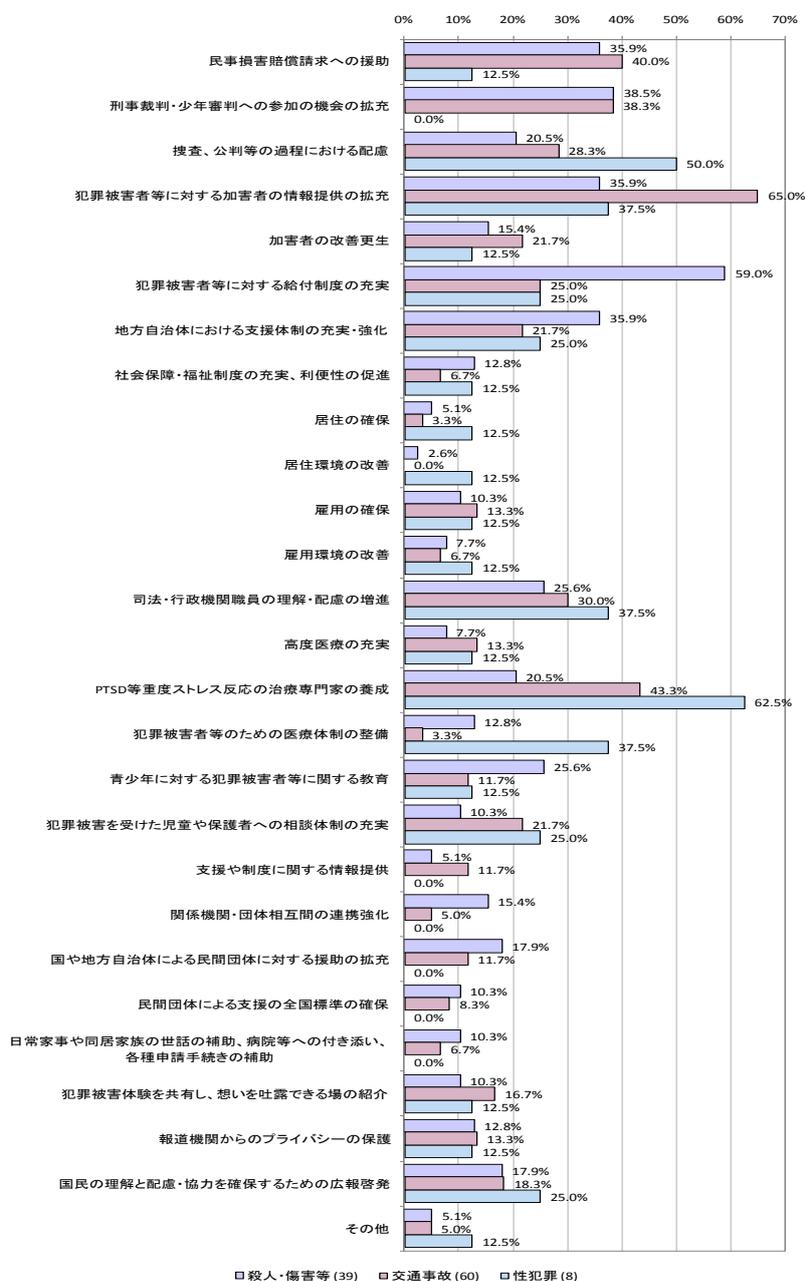
図表 2-88 交通事故×二次的被害（平成19年度）



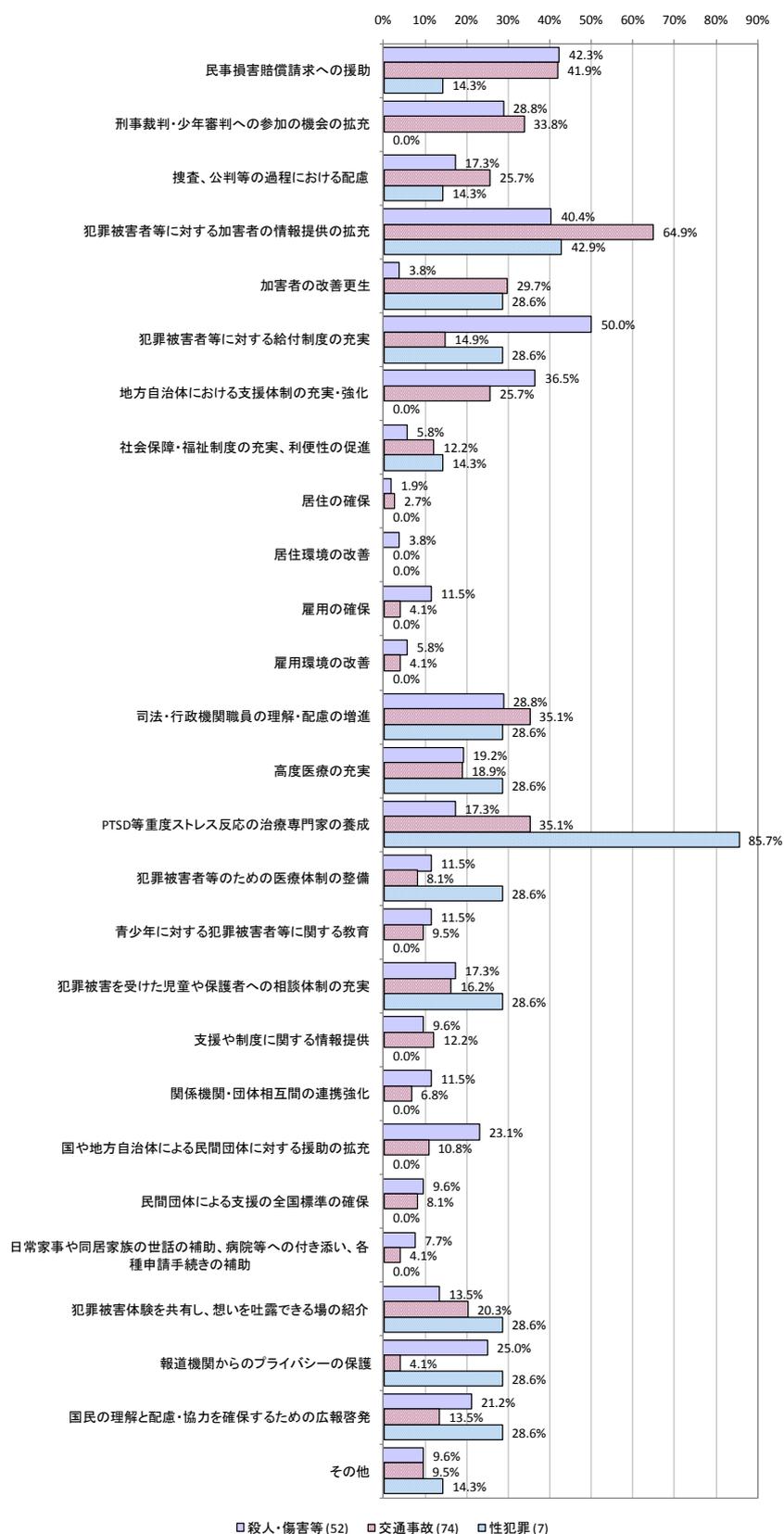
(3) 今後実現・充実させていくことが望ましい施策（パネル調査\_問17）

今後実現・充実させていくことが望ましい施策については、類型にかかわらず「犯罪被害者等に対する加害者の情報提供の拡充」や「民事損害賠償請求への援助」、「犯罪被害者に対する給付制度の充実」等を望む声が多い。類型別では、殺人・傷害等で「犯罪被害者等に対する給付制度の充実」(59%)、交通事故で「犯罪被害者等に対する加害者の情報提供の拡充」(65%)、性犯罪で「PTSD等重度ストレス反応の治療専門家の養成」(63%)が高い割合となっている。

図表 2-89 被害類型×実現・充実を望む施策（平成21年度）



図表 2-90 被害類型×実現・充実を望む施策（平成20年度）



図表 2-91 被害類型×実現・充実を望む施策（平成19年度）

